

第1部 パネル発表会

参加：自治会連合会・
コア研・シニアクラブ・
エコパークをつくる会・
ベイタウンニュース



分科会1「まちの緑ウォッチング」

主催：グリーンサム

■7年経った街のみどりをウォッチングしました (P2に紹介記事)。



秋のベイタウン・ フォーラムから

11月10日(土)に開催されたベイタウン・フォーラム、
あいにくの寒さと雨模様のなか、ベイタウンへの思い思い
の夢が語られました。

第2部「ブロードバンドについて話そう」

プレゼンテーション：ニューラルネット、ビットキャット
放談：ブロードバンドとコミュニティ活動



分科会2「コアで寺子屋をやりたい」

主催：ベイタウンスクール(仮)設立準備委員会

■地域で子どもたちと一緒に学ぶ(遊ぶ)学校を開設するために何をすればいいか、話し合いました (P2に紹介記事)。



第2部「ブロードバンドについて話そう」

“ベイタウンまちづくり研究会”の村岡さんの挨拶でフォーラム開始。ニューラルネットとビットキャットのプレゼンテーションでは両社共に「インターネット対応マンションの現状、イーサネットの優れた点、居住者のセキュリティ確保」などについて説明されましたが、話が専門的なこともあり、導入を検討している初心者には少し分かりにくい部分もあったようです。

しかし、ビットキャットによる“ブロードバンドの近未来”では「現在主流のADSL方式では実現できない、数百チャンネルの世界中の映画を居ながらにして見ることが出来る」などの夢が語られ、実際にフォーラム会場内でも場内で討論する様子をTVカメラで撮影し、その画像をそのままインターネットでパソコン上に表示するなどの技術が実演されると、来年3月にオープンするコミュニティコアで行われるコンサートを家庭に実況したり、小中学校の授業の様子をパソコンで参観する、というようなこともベイタウンですすぐ目の前に来ているという印象です。

後半は住民有志による「放談 ブロードバンドとコミュニティ活動」。

「私は去年の6月入居組。契約から入居までの1年半の間に、世の中のマンションは『入居時から高速常時通信可能』というようになってきたのに『このベイタウンではなぜ?』と去年の7月からあちこち調査検討し、8・9月に4～5回GPEで説明会を行い、10月の住民総会の決定を経て、やっと12月にニューラルネットを導入できました」と、GPEのIT部長と言われる伊藤さんが集合住宅へのインターネットの導入の苦勞を語ってくれました。しかし伊藤さんは同時に「この苦勞が東の街コミュニティの成立に大きく役立ったと思います」と導入にともなう意外な効果についても言及していました。

次はベイタウンネット創始者11番街の高島さんと、ネットで“さえちゃんを助ける会”の募金活動をされた川又さんのお話。ふたりとも動画や音楽を作る仕事をしており、特に川又さんは11番街のご自宅から大容量の音楽ファイルをメールで送るなどの作業を日常的にしているため、今回のような超高速通信はビジネスでも有効。「大容量のものを速く送受信できるのは、ストレスを感じずに仕事

ができてよいと思う。同時に、セキュリティはもっと厳しくしてほしい」との指摘をされていました。大容量の光ファイバ通信が可能になったときには、SOHOなど新しい産業がベイタウンでも盛んになるでしょう、おふたりのご意見は新しい可能性を感じさせてくれました。

また、同じく11番街の土堤内さんからは、「高齢化した時に安心して住み続けられる街にしたい。ブロードバンドはうまく活用すれば、高齢化した地域をより豊かにすることができる」と、街作りにブロードバンドを活かしたいという意見も出されました。

会場のパソコンで、ベイタウンニュースのバックナンバーをネットで見たベイタウンニュース記者2人は、「すごい、こんなに速く過去のベイタウンニュースをネットで見られれば、ニュースの新しい活用ができる」と、驚きの声をあげていました。【浜田】

●ベイタウンまちづくり研究会

村岡 e-mail:hmura@gpe-net.org

●ニューラルネット

<http://www.neural-net.co.jp/>

●ビットキャット <http://www.bitcat.com/>

●ベイタウンネット <http://baytown-net.com/>

街路樹に会いに出かけよう！

～分科会1「まちの緑ウォッチングに参加して」

11月10日(土)に開催された分科会のひとつとして、「まちの緑ウォッチング」が行われました。当日はあいにくの雨でしたが、「グリーンサム」のメンバーとともにベイタウンの街路樹を見て歩きました。グリーンサムは緑の街づくりを住民で考えていこうというグループで、活動の一環として街路樹調査を行い、緑のマップにまとめていきます。

「そもそも、街路樹は人間の都合で限られた土のなかで、過湿と乾燥に耐えている不遇な人(樹)たちです。植え込みの樹と水の取り合いをしてやっと生きています。さらにこのベイタウンでは塩害が深刻です」今回同行してくれた緑の専門家の塚原道夫さんのお話からスタート。

実際、2番街と公園東の街の間の「打瀬北通り」のユリノキ(ユリに似た花を咲かせる)は枯れる寸前といった様子。これは両側に建物が建ったことにより、塩分を含んだ海風の通り道になってしまったため、潮に弱いユリノキにはかなり過酷な環境になっています。その証拠に風の影響の少ない打瀬小の前の道沿いはこのユリノキも元気を取り戻しています。

潮に一番強いのがクロマツですが、ヤマモモ、モミジバフウ、ナンキンハゼなどもユリノキやマロニエに比べれば、まだベイタウンの街路樹に適しているそうです。ちょうど、小学校横のモミジバフウが美しく紅葉していました。また、美浜消防署打瀬出張所からリンコスに至る通り沿いのナンキンハゼも、色づいたハート型の葉がわたしたちの目を楽しませてくれています。



打瀬北通りのユリノキ

しかし、やはり目につくのは棒状になったイチヨウや枯れた葉の間に今頃新芽をつけているマロニエなどの姿。ベイタウンの環境条件と街路樹の適性のミスマッチがこうした結果を招いていることを、樹が身を持って教えてくれているようです。

ウォッチングを終えて参加者からは、「枯れた街路樹を見ると、ただ早く植え替えてくれたらと思っていたのが見る目が変わりました。樹の1本1本に配慮が必要なんですね」「自分たちにもできそうなことがあると思いました」「建物ばかりが立派で殺風景な街ではなく、四季折々歩くのが楽しくなるような緑の街を育てていきたいと思いました」など、今回の街路樹ウォッチングで実情を知り改めて街の緑の大切さを実感したという声が多く聞かれました。

「街づくりは、ともすると造る側のイメージが先行して、住民の実感からかけ離れたものになりがちですが、住んでいる人が創っていくのが本来の姿です。専門家にできないことを住民ができれば素晴らしいですね」と、街路樹の状態が克明に記録されたマップを前にした塚原さんもグリーンサムの取り組みを評価してくれました。

グリーンサムでは現在、様々な木々の種を発芽させ、その苗木を多くのボランティアが育てています。育てられた苗木は18番街横の植樹試験地に植えられ、将来ベイタウンに植えられるのを待っています。「住民の手で、緑の街づくりを！」

まだ、芽吹いたばかりの活動ですが、街全体を自分の庭の延長としてとらえ愛着を持って育てていきたいという人たちの熱意に共感したひとときでした。

【取材 / 佐藤・写真 / 板東幸恵】

■グリーンサムへのお問い合わせはT&F043-211-6900(山木さんまで) / e-mail:kya
maki@ij4u.or.jp



コアで寺子屋をやりたい！

～分科会2「ベイタウンスクール構想」

分科会は、「地域の人たちが得意分野・経験を生かして授業をする「地域交流特別クラブ(打瀬小)」や「AT(もとAS)講座(打瀬中)」の実績を、ベイタウンニュースの過去の記事を使って説明することからスタート。ベイタウンでは、これまで7年間学校と地域でこれらの講座が作り上げられてきた実績があり、来年度から学校週休2日制になったとき、その休日を使って「地域で子どもを育てる活動をはじめたい」とベイタウンスクール構想が発表されました。

子どもたちを地域で育てる活動の必要性は、これまでベイタウンで何度か行われたフォーラムでも指摘されてきたことですが、実現させるには、学校との協力関係をどう発展させるか、地域でスクールをやっても子どもたちは来ないのでは? などいくつかの議論も必要です。また、来年3月のコア開館にあわせて計画をすすめるには、具体的な作業内容も検討しなければなりません。

今回のフォーラムでは、これらの問題点を扱うため、分科会参加者を更に「土台作り」「すぐに見える講座」「遊びで学ぼう」の3つのワークショップを行うグループに分け、問題毎に検討することにしました。

「土台作り」ワークショップはスクールの組織や理念を話し合うグループ。分科会参加者には男性が多かったせいか、3グループの

中では、最も人気の高いワークショップとなりました。このグループの中心テーマは、地域スクールと学校との関係。来年度、新しい指導要綱で始まる学校の「総合的な学習」に地域スクールとして何かできないか。これまで行ってきた小中学校での地域講座とどう関係するか、などの点について、参加者から意見が出されました。

このグループでは、小中台中学校の渡辺昭校長(前打瀬中学校長)が「教科書と先生と子どもだけでは子どもは育たない。今、小中台中学校では、学校の先生たちが担当教科でない“自分の得意分野・趣味”を活かした特別講座を行っています。また、水曜午後は、小学校、市立高等学校とも行き来し、『小学生に楽器を教える』『高校生に美術を習う』、そんな講座が行なわれています。子どもたちは、部活動と講座を天秤にかけ“自己決定”して講座に参加しています」と、小中台中学校の新しい取り組みを披露し、学校教育も変



土台づくりワークショップの様相

化しているということに参加者に印象づけていました。

すぐできる講座ワークショップは、いわば、今までの小中学校での住民講座をそのまま地域主体の活動に置き換えたもの。なによりも早く立ちあげることでベイタウンスクールの核を作ろうというものです。

「今までの“竹細工/昔の遊び/グランドゴルフ”などはすぐにできるが、作業室や校庭を使うものは学校を借りることになる。また、コアだけですべての活動はできないので、各番街の集会場を教室にし、コアは事務局に使いたいなど、「すぐにできる講座」グループは、3月の開校をにらんで具体的な作業を検討していました。

「遊びで学ぼう」ワークショップの発表は、中高生のお母さんである御供さん。子どもたちは遊びのなかから沢山のことを学ぶ。遊びと学びの接点となるような「遊び場」をこのスクールの中に設けられないかとユニークな取り組み方を紹介しました。

ベイタウンスクールは子どもたちを地域で育てることが活動の出発点ですが、大人が大人に教える市民大学のサポートをすることもでき、生涯教育への発展も考えられます。また、地域の大人が子どもたちひとりひとりの個性を見つけ、伸ばすことができれば、これは素晴らしいことです。いくつかの問題点も指摘されましたが「できることからやろう」という姿勢で、ベイタウンスクール設立に向けて歯車は回りはじめたようです。

【浜田・松村】

打瀬中 AT 講座で 三つの「新聞」が 生まれました

ベイトウンニュース編集局では、打瀬中学校で10月17日に実施したAT講座で「ベイトウンニュースをつくろう!」と題した講座を、記者編とカメラマン編に分けて開きました。受講してくれた生徒は合わせて21人。全体を3グループに分けて、各自が決めたテーマで書いた記事と記事に合わせて撮影した写真を、3種類の「新聞」に整理しました。第1回は、打瀬中の男子バスケットボール部に属する2年生3人が最近の「勇躍」ぶりを描いた「打瀬中男子バスケ部新聞」です。

(2002年1月号では「生徒の身近なヒト・モノ新聞」、2月号では「打瀬中ブカツ新聞」を掲載する予定です)

打瀬中男子バスケ部新聞

記事担当：脇山一清、関明浩、岩清水洋平
写真担当：比嘉佑太、多田裕帆、五十嵐直

県ベスト8を目標に日々練習しています

男子バスケットボール部はキャプテン笹谷君率いるとてもチームワークのいいチームです。顧問の伊藤先生と、休日にバスケットを教えに来てくれる山口さんの厳しいご指導のもと、日々練習をしています。ふだんは、フットワークなどでアップをした後に、試合形式の練習をします。土日は試合形式の練習をする前に、ディフェンスやオフェンスの練習、ポジション別の練習をやります。全体練習が終わった後でも、シュート練習や自分のポジ

ションの練習をやっている人もいます。

最近出場した新人戦では、市でベスト16を決めました。部の目標としてはとりあえず県でベスト8に入ることです。県には強いチームがたくさんありますが、打瀬中バスケットボール部は、やる気とチームワークなら誰にも負けません。これからは伊藤先生と山口さんのご指導を受けて、がんばりたいと思います。みなさま応援よろしくお願ひします。

【脇山一清】



小中台に破れ、市ベスト16に終わる

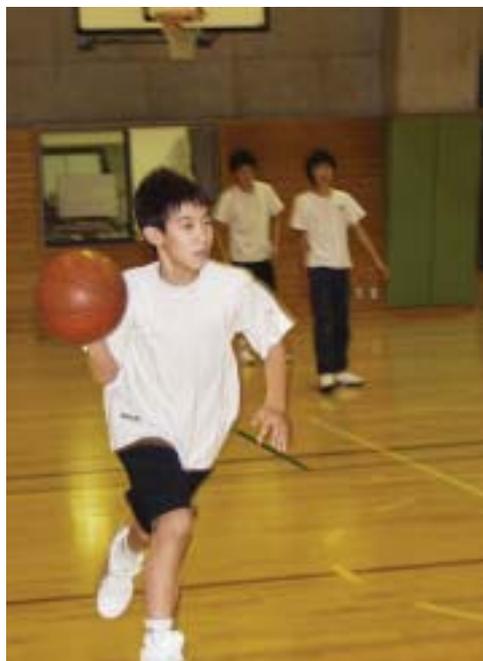
今回おこなわれた新人戦では、僕たち男子バスケットボール部はシードなのでブロック2回戦からの出場でした。今年の1月におこなわれた1年生大会でブロック優勝し、シード権を獲得していました。新人戦では、市で5位に入ると県大会へ出場できます。

ブロック予選では、稲毛中、土気南中と続けて快勝し優勝。中央大会へブロック1位での出場を決めました。

中央大会1回戦の相手は小中台中学校で

す。予選2位で中央大会へやって来ました。前半は、ファールトラブルもあり、なんとか1点差でリード。続く後半は相手にリードを許したものの、ラスト5分で1点差に迫りました。でも、その後は相手に点差を広げられ、結局4点差で負けてしまい、苦い涙をのみました。

新人戦では市ベスト16に終わりましたが、今回の反省も生かして、次のマリンカップでの優勝を目標にがんばっていきたいです。【関明浩】



男子バスケ部が今年「強い」理由

今年の男子バスケ部は強い。なぜ強いのか、追究してみました。

理由はいくつかあります。

ひとつは、チームの中心になっている2年生が1年のとき、1年生大会という1年だけが出られる大会でブロック優勝したことがあげられます。打瀬中バスケ部はそこで初めて賞状をもらいました。

もう一つの理由は、男子バスケ部にコーチがついたことです。コーチの名前は山口さん。男子バスケ部にとっても熱心にバスケットを教えています。部員も、山口さんが教えに来る休日は、ふだんよりいっそうがんばって練習しています。山口さんの練習はとてつきつ、つらいときは「つらい」と言いますが、みんなバスケットが好きなので、精いっぱいやっています。

そしてもう一つ!! なんとといっても、部長の笹谷君と副部長の佐藤君がとても大きな声を出して、みんなを引っ張っていることです。もちろん、ほかのみんなも声を出しているんですが、部長と副部長の声ははずば抜けていて、よくわかります。

先日、幕張総合高校で小中台と新人戦の公式試合をやって、おしくも40対44で負けてしまいました。ほとんどの部員が悔し涙を流していて、負けたことによって、みんなの結束力は高まりました。そしてその後の練習で反省の意見を出すときには、みんなが意欲的に手を挙げて意見を出し、それを練習に生かしています。

「小中台には必ずリベンジし、今年強い昭和秀英中にも勝とう」と意気込んでいます。みなさんもどうか打瀬中男子バスケ部を応援して下さい。よろしくお願ひします。

【岩清水洋平】

B

-

I

n

f

o

r

m

a

t

i

o

n

「リトルファイブ」でコーチと部員を募集

「リトルファイブ」は打瀬小学校と幕張南小学校を拠点に活動するミニバスケットボールクラブです。クラブではいま、男子小学生を指導するコーチと、小学2～5年生の部員を募集しています。詳しくは、高橋さん（携帯 090-45359280/e-mail little5makuhari@livedoor.com）まで。

打瀬小児童がベイタウンの地図を作りました

打瀬小学校4年の男女9人が学校の「うたせ学習」でベイタウンの地図を作りました。作った地図は全部で8種類。以下の店の協力を得て展示することです。地図には小学生の目から店情報がふんだんに盛り込まれています。出来映えをぜひご覧ください。
 <協力要請店>コロラド（1番街）、写真屋さん45（3番街）、ヤックス（3番街）、Yoshino（3番街）、ドリームチャンキー（5番街）、セリオ（6番街）、きらら（セントラルパーク）、ポニークリーニング（セントラルパーク）

緑を活かした建替え

武蔵野緑町パークタウン（東京都武蔵野市）

JR中央線三鷹駅と西武新宿線東伏見駅のちょうど中間、武蔵野市役所に程近いところに「武蔵野緑町パークタウン」があります。

この「武蔵野緑町パークタウン」は建替えによって誕生した新しい団地ですが、建替え前からあった樹木が最大限に活かされるよう、計画されています。

ケヤキやナラ、クロマツなど武蔵野の面影を物語る木々がたたくずんでおり、春になれば大きく育った桜も満開となります。団地内にある小道は人のスケールに合わせられているため歩きやすく、自然と団地中央の広場に導かれる形になっています。

また住棟の色も街に溶け込み、団地の子どもたちが描いた絵をタイルにして、廊下に彩りを添えています。これは、建替事業開始から十数年、団地居住者と公団との長い話し合いの中で築き上げられてきた貴重な空間です。



都市公団

賃貸住宅のお問い合わせは
 総合募集センター津田沼案内所
 TEL：047-478-3711
 公団住宅の駐車場のお問い合わせは
 日本総合住生活（株）千葉支店

■私のオススメ並木道は公園大通りを北へ行った放送大学横の並木です。歩道を覆うように茂った緑は夏には涼しい木陰をつくり、秋には美しい紅葉を見せてくれます。また、海浜公園沿いの歩道ではつやつやとした立派なドングリを拾うことができます。接着剤で枝につけるとオシャレなクリスマスのオブジェにも。今度はこのドングリを育ててみよう。

佐藤則子（#3-310/T&F211-0090）

■打瀬小の4年生がやった「うたせ学習」の発表会はとても勉強になりました。「自分たちの暮らしをよりよくするために自分たちのできることを提案する」のを目的に「リサイクル」とか「物の使い方」とか各自の興味をもったテーマで学んできたことを、クイズや寸劇？も交えながら発表してました。今回はほかの行事との関係で土曜日開催を実現できなかったとのことですが、次回以降はぜひ、土曜日にやって、保護者以外にも門戸を広げてほしいものです。

茂木俊輔（#7-305/T&F:211-1066/m38032@pp.ij4u.or.jp）

■毎朝の通勤時に日比谷公園の中を通っている。ケヤキや銀杏の木もすっかり色づいて、都心の中で森林浴が楽しめる素適な場所である。

今回のフォーラムでは、街の緑化活動に取り組んでいる「グリーンサム」の方達によって、ベイタウンの緑の現状が発表されたが、ひどいものだと思う。たしかにベイタウンのコンセプトは「都会的な住宅地」だが、街の中にもっと緑を求めるのは贅沢なのだろうか？

金一剛（#3-220/T&F:211-0388/ikkim@xa2.so-net.ne.jp）

■先日の打瀬中・パティオスの会（打瀬中学校PTA組織）の役員会でも、校長先生が「文部科学省では、もう学校だけで教育は出来ない。地域の人たちに協力してもらおう時だと言っている」と仰っていました。また、「これから土日が休みになると、パティオスの会の会議はどうするのか」「平日の夜に役員会をするとすると…来年からは、役員のなり手がなくなるのでは」なんて話も。それこそ「コアで役員会か？」「ブロードバンドで役員会議か？」などと、冗談まじりで考えてしまいましたが、本当に、これからどうなっていくのでしょうか。

浜田貴代子（公園東の街/atmark@pop01.odn.ne.jp）

■先月号のトップ記事「ベイタウン再発見クイズ」はいかがでしたか。手前味噌ながら、この記事については各方面から好評をいただきました。特に子どもたちには大ウケだったようで、発行されたその日から、街のあちこちでベイタウンニュースを手にした子どもたちが歩き回っていたという話を聞きました。「あと一個、11番街のポストが見つからないんだよ」と、翌日も友達とニュース片手に小学1年生の子が学校から帰るなり飛び出していった、と教えてくれたお母さんもいます。一説には学校で総合学習の教材に採用されたという話も。真偽はともかく、そんな活用方法もあるのかなと思いました。

企画としては、ベイタウンニュース始まって以来の成功という部類に入りそうですが、実はこの記事もネタに詰まり、「来月号なんかない？」と、直前の編集会議でない知恵をしばってひねり出した窮余の一策でした。その証拠にという訳ではないですが、記事は大人を対象に書いたもの、「こんなに子どもたちに好評なら、最初から子ども向けで書けばよかった」、とは記事を執筆した佐藤記者の弁です。改めて勉強させられた記事でした。松村守康（#10-612/T&F:211-6853/m-matz@mxq.mesh.ne.jp）

コミュニティコアの愛称決まる

去る 11 月 10 日幕張ベイタウンコミュニティコア（仮称）愛称決定委員会が開かれ、コア愛称は「幕張ベイタウン・コア」と決定されました。この委員会には当ベイタウンからも下川コア研究会や打瀬中学校生徒会長も参加。5 回の投票の結果上記の名称に決定されました。「すっきりしていて、よろしいんじゃないでしょうか？！（下川氏談）。コア問題はこれからいよいよピアノの機種決定と公民館長選びに焦点が移ります。

ベイタウンスクール／コアで寺子屋

フォーラムの記事でもお伝えしましたが、来年 3 月開館予定のコミュニティコアで、市民が先生になるベイタウンスクール（仮称）を開こうという構想が進んでいます。来年度から学校完全週休二日制となる休日に、小中学校の子どもたちを対象にした講座を、コアを中心に各番街の集会所や公園、学校を利用していくつも開こうというものです。もちろん大人が生徒になる市民大学講座も可能。生涯教育への発展も考えられます。こんな講座を開きたいという講師希望の方、お手伝いだけでもというサポーター希望の方は下記までお問い合わせ下さい。

鎌田（4 番街／TEL:211-0459）、松村（10 番街／211-6853）、角幡（6 番街／211-0571）、御供（1 番街／211-0356）

新青年男年女募集記事



今年も恒例の新青年男年女の撮影の時期がきました。今年の撮影に参加した方はベイタウンの歴史の中で特別な人になります。建設中のコミュニティコアをバックにした撮影はベイタウンの歴史の中でも今年 1 回限り。文字通り幕張ベイタウンの歴史の 1 ページを飾る 1 枚です。来年の干支は午（ウマ）。午年の人（特に小学 5 年生とシニアの方）は是非おいでください。

撮影日時：12 月 17 日（日）午前 10 時～
場所：5 番街エントランス前集合→コアをバックに撮影
問合せ：編集局 松村（TEL:211-6853）

「生」が一番 アトリウムコンサート

「生」ビール同様、音も「生」演奏が一番です。どんなに良い CD も目の前の演奏にはかないません。月 1 度のワールドビジネスガーデン・アトリウムコンサート、今月はドイツ在住 32 年でバンベルク交響楽団やサイトウキネンオーケストラの首席奏者・水野信行氏のホルンリサイタルでした。

次回 12/18（火）18 時開演のアトリウムコンサートは、豪華。「東京フィル 12 人のチェ

リストによるクリスマス・チェロアンサンブルコンサート」。12/10（月）午後 2 時からワールドビジネスガーデンインフォメーションカウンターで整理券（1 人 1 枚）を配布するそうです。皆様、お誘い合わせの上無料「生」演奏を。（西の街 音楽愛好家）

CAP おとなのためのセミナー

日時：12 月 4 日（火曜日）午前 10 時～正午
場所：パティオス 13 番街集会所
申し込み・連絡先：“打瀬に CAP を呼ぼう会”
佐藤 T/F:275 - 6575・津田 T/F:213 - 0770
受講料：700 円

講師：千葉 CAP 石井光里さん・近藤麗子さん

* 子どもワークショップは小 2 向け。小学校 2 年生向けワークショップを 12 月 4 日・6 日に開きます。詳しくは上記連絡先までお問い合わせ下さい。

海浜打瀬小学校の校庭開放について

来年度から海浜打瀬小学校でも校庭開放が始まります。海浜打瀬小学校の施設利用を希望する方は鎌田（パティオス 4 番街／TEL:211-0459）までお問い合わせください。

神田外語大学より

専任講師による初級英会話の公開講座を行います。期間は 1 月 26 日（土）から 3 月 30 日（土）までの全 10 回。1 月中旬に募集予定です。詳細はベイタウン・ニュース 1 月号をご覧ください。

お助け

レディース訪問記

グランパティオス公園西の街に「お助けレディース」なるグループができた、毎月ベイタウンニュースを配布している西の街の福室さんが教えてくれた。聞けば、毎月西の街の全戸（400 部余り）にベイタウンニュースを配布して下さる、お母さんたちのグループだそうだ。ニュースを配布してくれるのはたいへん有り難い。しかし、何よりも名前が気に入って早速取材させていただいた。

お助けレディースとはその名のとおり、若いお母さんのグループだ。集まったきっかけは、「同じ街に住んでいて顔も知らないのは寂しい」と新小学校 1 年生の保護者である西部（にしづ）さんと明石さんが企画した新入生の懇親パーティだった。西部さんは西の街の自治会で様々な活動をしていた福室さんに懇親パーティのことを相談したが、話の中で福室さんが西の街の活動の他にベイタウンニュースを毎月孤軍奮闘で配っている、ということを知り、「これなら私たちにも・・・」と親しいお母さんたちに声を掛けて配布に名乗りをあげてくれた。

グループのメンバーは、西部さんを中心に、田口さん、植草さん、磐井さん、青野さん、明石さんの 6 人。「でも、まだグループというほど決まったものでないので、どなたでもお手伝いいただける方は大歓迎。お助けレディースという気の利いた名前は、田口さんのネーミングだそうだが、これとて決まった名前ではない。「お助けシスターズ」と少し遠慮して呼ぶこともあるという（そんなこと

はない、僕から見ればまるでビーナスのようなレディースだ）。グループの共通点は「たまたま、同じエレベーターを使う」ことだが、後で考えると「生協や幼稚園バスの送迎でも顔を合わせていた」そうだ。

毎月第一土曜日の午前中、レディースのうち二人でベイタウンニュースを 10 番街集会所から持ち帰り、皆さんで挟み込みを楽しむ。取材させてもらった 11 月号の配布日はたまたま祝日だった。部屋に入ると「オジサンだれ、何しにきたの？」と子どもたちに出迎えられる。「お休みの日は、子どもと一緒に来たがる」のだそうだ。持ち帰った 11 月号のベイタウンニュース 1 面を見るなり、4 年生の女の子は「あ、これ知ってる。これも」と街の不思議クイズを始めた。集まった子どもたちは幼稚

園世代から小学 5 年生まで 10 人ほど。クイズに熱中して、あまり挟み込む作業の役に立っているとは思えないが、こんな小さいうちからベイタウンニュースを楽しんでくれるとはありがたい。「子どもたちが配ると、後で必ず数が合わなくなるんです。きちんと数えて渡しているのにねえ」とはあるお母さんの感想だが、こんな微笑ましい話題が出るのも、自分の街の集会所に持ち帰って配ることの楽しみだ。

自分の街に持ち帰ってみんなで配る方法は公園東の街の樺田さんの発案だが、このことがコミュニティ活動のひとつのきっかけになる、と話してくれたことがある。こんな新しい楽しみ方を提供できたのであれば、ベイタウンニュース編集局としては本望である。

【松村】

